

四文字句会



会員の作品

10月26日(火)、戸室町公民館において、旧安佐地区一帯に江戸時代から伝わり、庶民の文芸の楽しみであった「四文字句会」が開かれました。

四文字は、俳句と同じ十七文字の短詩形で、俳句と川柳の中間的な文芸とのことです。「四文字」のいわれは、「句をもじる」など諸説がありはっきりしていません。時代とともに忘れられていくこの句会を、次の世代に残したいと願う保存会が三好地区に結成され、一時途絶えていた句会は再び復活されました。

年4回行われる中、今回の秋の句会では、会員13人が、それぞれの自慢の時節の句を披露して、楽しい時間を過ごしました。

(市民記者
葛貫 郁子)



四文字句会の様子

村上星宮神社秋の例大祭



子どもたちによる敬神講神楽

10月10日(日)、村上町星宮神社において秋の例大祭が行われ、青空の下で子ども相撲、敬神講神楽などが披露されました。

春と秋の二度行われるこの祭りでは、氏子たちの無病息災、五穀豊穡を祈り、神楽を奉納しています。今回は、近所のケアハウスなどに案内状の配布も行い、大勢の方が集まって、にぎやかで盛大な祭りとなりました。

佐野市の無形文化財に指定されている村上星宮神社敬神講神楽は、現在、8人の神楽師がこの民族芸能の保護、育成に尽力しています。10年ほど前から、地元吾妻小・中学校に通う町内の子どもたちによる子供神楽も実施され、女の子がお囃子、男の子が舞を担当しています。

神楽を見て、まさに伝統文化が次世代へ継承されていく様は、心温まる思いでした。

(市民記者
島田 由美子)



子ども相撲の様子

まちなか活性化ビル「佐野未来館」がオープン

11月3日(祝)、まちなか活性化ビル「佐野未来館」のオープニングイベントが開催されました。

この4階建てビルには従来から「人間国宝田村耕一陶芸館」が入っていましたが、このたび改装し、1階はこれまでどおり「人間国宝田村耕一陶芸館」、2階は市民ギャラリー、3階に商業支援施設としてチャレンジショップとレンタルボックス、4階は市やまちなか活性化推進団体の活動拠点として活用していくこととなりました。そして、佐野駅前交流プラザ「ばるぼーと」や佐野商工会議所の「まちなかサロン」と連携し、まちなかのにぎわい創出の拠点施設となります。



オープニングイベントの様子

この日のオープニングセレモニーでは、佐野女子高のプラスバンド部の演奏が華を添える中、テープカットが行われると、次々に来場者が未来館の中へ入っていきました。また、痛車展示やコスプレ撮影会、大道芸、クリケット女子日本代表のアジア大会壮行会など多彩なイベントで門出が祝われ、親子連れなどが楽しそうにまちなかを歩いでいました。



まちなか活性化ビル 佐野未来館

Town Topics

地域的话题を紹介するコーナーです

20年20回の寄付、25回の訪問受け入れ



岡部市長に寄付を手渡す小堀さん(右)

市出身で、京都三千院のご門主である小堀光詮さんから、今年も佐野市社会福祉事業基金へ寄付をいただきました。20年間にわたり20回目の寄付です。また、この秋には、市民京都バスの旅での三千院への訪問受け入れが25回を数えました。ふるさと佐野市を思う小堀さんの物心両面でのお心遣いに厚く感謝申し上げます。

「まちの駅ネットワークさの」設立

10月27日(水)、「まちの駅」連絡協議会の設立総会が市役所田沼庁舎で開催されました。「まちの駅」とは、道案内や観光情報の発信、トイレ提供などを無料で行っていただける街の休憩所のことです。市で6月に募集したところ、市内の28の店舗・事業所に、まちの駅としてご協力いただけることになりました。総会では、協議会の名称を「まちの駅ネットワークさの」とすることが決まったほか、会のきまりや予算、スタッフなども承認されました。同ネットワークは、来年1月から、本格的にまちの駅としての活動を始める予定です。



設立総会の様子

今年も大盛況！どまんなかフェスタ



どまんなかフェスタの様子

11月7日(日)、田沼グリーンスポーツセンターで「どまんなかフェスタ佐野2010」が開催されました。ステージでダンスや和太鼓などが披露されたほか、佐野市の特産品や地場産業製品を紹介・販売するテントが100以上立ち並びました。ほかにも、福引抽選会やはしご車、工事用車両の乗車体験なども行われ、たくさんの人でにぎわいました。

在京佐野ふるさと会が開催される

市出身で首都圏で活躍されている各界代表の方々に組織され、ふるさと佐野市の発展に協力していただいている「在京さのふるさと会」の第22回総会が、10月26日(火)、東京都内において開催されました。顧問として出席した岡部市長は、今後も、ふるさと佐野の情報を広くPRしていただけるよう協力をお願いしました。



総会の様子

水道管や堀などに物やごみがつまると、水の流れがわるくなったり水漏れすることがあります。このように物が支えることをドズケルといいます。「土管にごみがドズケチャッターもんだから、水の流れがわるくなっちゃって困ってるんですよ」などといいます。

ドズケルは、物が「つままる」こと以外に、話の途中で言葉が出てこないようなときにもドズケルといいます。大勢の前で話をするとき、緊張すると、話がつつかえたり声が出なくなると、一瞬沈黙状態になることがあります。このように話が進まなかったり、一時的に途切れてしまうことをドズケルといいます。

「うちの人(夫)ったらサー、これまで人メー(前)でしゃべることはなかったンだつてサー、友人の結婚披露宴のあいさつで、あがつちやつてサー、二言、三言しゃべったらドズケチャッターサー、聞いててヒヤセ(冷や汗)が出ちゃったよ」

ドズケルは滞るといふ意の「支える」に、意味を強める「ド」(接頭語)のついた「ドづかえる」が変化したものです。佐野には、ドグラス(殴る・打ちのめす)の意・ドズク(殴る・突き飛ばす)の意 など「ド」のつく語はたくさんありますが、「ド」がつく語は、荒々しい感じがするために、女性はほとんど使用せず、もっぱら男性だけが使用しています。

(市民記者 森下 喜一)

佐野弁 ばんてい

言葉につまることを ドズケルという